



大学院だより

大学院修了式

2024年3月11日、大学院修了式が、血脇記念ホールにて学部129期生の卒業証書授与式と合同で行われました。修了者の1名ずつの呼名により入場し、一戸達也学長の式辞の後、38名の修了者の代表として微生物講座の安藤雄太郎大学院生に齋藤淳大学院研究科長から修了証が授与されました。その後、新館8階に移動し、一人ひとりに修了証が授与されました。また、大学院研究科長賞が微生物講座の安藤雄太郎大学院生に齋藤淳大学院研究科長から授与され、同窓会長賞が微生物講座の安藤雄太郎大学院生と解剖学講座の渡辺元次大学院生に富山雅史同窓会長から、授与されました。



修了者全員が入場し、微生物講座の安藤雄太郎大学院生に齋藤淳大学院研究科長から修了証が授与



齋藤淳大学院研究科長から修了証が授与される安藤雄太郎大学院生



晴れやかな笑顔の修了者たち



皆、頑張った！



ばんざーい！



全員に修了証が授与された後の集合写真



大学院研究科長賞が授与された安藤雄太郎大学院生と齋藤淳大学院研究科長

大学院研究科長賞

本年の大学院研究科長賞は、微生物講座の安藤雄太郎大学院生が受賞し、齋藤淳大学院研究科長から記念メダルが授与されました。

- ・安藤 雄太郎 大学院生の受賞テーマ

The neutrophil—osteogenic cell axis promotes bone destruction in periodontitis.

同窓会長賞

毎年恒例の同窓会長は、微生物講座の安藤雄太郎大学院生と解剖学講座の渡辺元次大学院生が受賞し、富山雅史同窓会長から、賞状と金一封が授与されました。

- ・安藤 雄太郎 大学院生の受賞テーマ 同上
- ・渡辺 元次 大学院生の受賞テーマ

Chronological Changes in the Expression and Localization of Sox9 between Achilles Tendon Injury and Functional Recovery in Mice.

大学院での学びの歩み

微生物講座
安藤雄太郎

10年前の春、東京歯科大学に入学して初めて迎えた卒業式の日。華やかな振袖姿や颯爽としたスーツ姿の6年生の先輩達の横で、いかめしいアカデミックガウンに身を包み、少々貫禄もついてきているようにも思えた大学院生の先輩方を眺めながら、10年の歳月とはかくなるものかと心のうちで密かに思っていたのも今は昔。あの時感じた10年の重みと渋みを今ひしひしと自分自身に感じております。

振り返ってみると、私は日本一ラッキーな大学院生活を送ったのではないかと思います。元々基礎研究を志望していた私にとって、大学院進学は極々自然なものでした。微

生物学講座に所属しながら、「免疫学をやりたい！」という一心で、山口朗先生と石原和幸先生の大変なご厚意で、東京大学医学部の免疫学教室（高柳広教授）にお世話になることになりました。東大医学部といえば、泣く子も黙る鉄門、理三。塾や予備校ではまず同じクラスになることはないであろう秀才集団。そんな環境で研究ができるなんて、これ以上ない幸運なことです。しかし、高柳研といえば osteoimmunology のメッカ。世界のタカヤナギ。猛者がひしめく梁山泊、東大医学部の中でも一際異彩を放つラボの一つ。果たして私は無事4年間を終えることができるのか？生きて帰って来れるのか？本当に戦々恐々としました。

そして、その予想は見事の中。ラボ入り早々、指導教官の塚崎雅之先生からシングルセル解析の勉強をするようにとの命が。「しんぐるせるかいせき…?」。右も左も分からずウジウジしている私に、「彼が詳しいから何かあったら彼に聞いて！」と言われて紹介されたのは、日本語を全く話せないベトナム人のナムさん。カタコトのブローケンイングリッシュを武器に果敢に奮闘したのも今では良い思い出です。

まるで高校球児がいきなりメジャーリーグに挑戦したかのような状況だったので、それはもう大変でした。研究室には多様なバックグラウンドを持つプロフェッショナルが集い、ラボセミナーでは様々な角度から非常にクリティカルな質問が飛び交っていました。自分の進捗報告の時には、内角高めをえぐる100マイルの豪速球のような鋭い質問が矢継ぎ早に投げかけられ、大炎上なんてこともしばしば。とはいえ、最先端のサイエンスが作られていく現場を直に感じることはとても貴重な財産となりました。

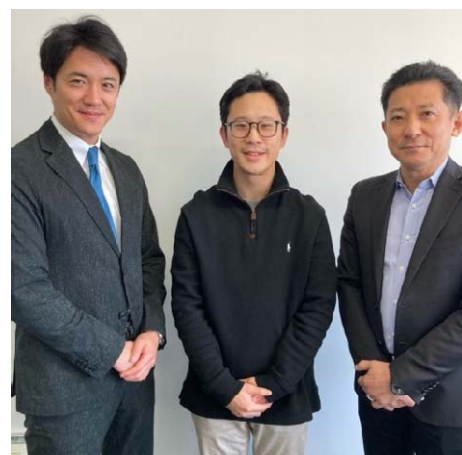
とにもかくにも、塚崎先生には厳しくも辛抱強く、大変親身にご指導いただきました。そして、本当に様々なチャンスを与えてくださいました。研究では主に、歯周炎骨破壊に関する研究と血管石灰化の制御機構に関する研究を行いました。歯周炎の研究に関しては、バイオインフォマティクス解析とマウスジェネティクスを駆使して、歯周炎骨破壊に寄与する免疫細胞—間質細胞クロストークの一端を明らかにすることができ、その成果を *International Journal of Oral Science* 誌に発表することができました。また、在学中には日本免疫学会のきぼうプロジェクトや、日本学術振興会特別研究員 DC2 に採択していただきました。特に、免疫学会のきぼうプロジェクトでは全国の同世代の非常に優秀な大学院生達と交流することができ、とても大きな刺激となりました。正直、刺激が強すぎて時折「自分はここにいいのか？」なんて思うこともしばしばありましたが、それもこれも塚崎先生が辛抱強くご指導くださった賜物です。

大学院生活では、微生物学講座や他研究室、東大免疫学教室の先生方の他、同期、先輩、後輩、堂地さんや世木田さんをはじめ大学院事務室の方々には大変お世話になりました。そして、夢のような大学院生活の全ての始まりは山口先生と石原先生のおかげです。大学院の4年間、比較的楽観的な自分でも、辛い時やしんどい時が多々ありました。そんな時、ふと先生方が温かく声をかけてくださり、またいきいきとサイエンスを語ってくださるその姿に幾度となく力をいただきました。何度お礼を言っても言い切れません。本当にありがとうございました。

4月からは、引き続き東大免疫学教室で基礎研究に従事する予定です。思い返せば、学部から大学院に至るまで本当に長い間、東京歯科大学にお世話になりました。約10年間、多くの素晴らしい先生方、友人、先輩、後輩達と出会うことができ、入学した当初は思ってもみなかったような素晴らしい学びの機会を与えていただきました。本当に東京歯科大学で勉強できて良かったと思います。東京歯科大学での勉学の機会を支えてくれた両親にもこの場を借りてお礼申し上げます。これからは、大学院での学びを糧に、歯科医学の発展に少しでも寄与できるよう精進してまいります。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。



山口朗先生（左）と石原和幸先生（右）



塚崎雅之先生（左）と高柳広先生（右）

大学院修了にあたって

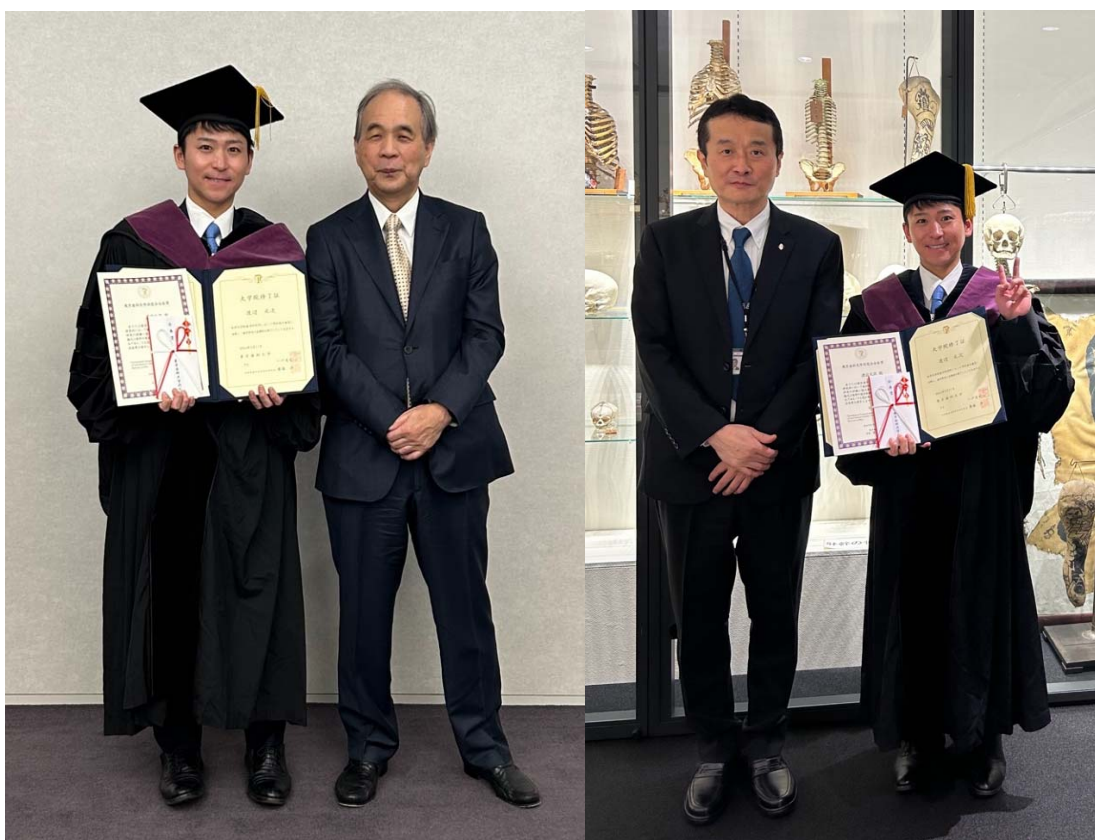
解剖学講座
渡辺 元次

研究とは縁もゆかりもない学生生活を送っていたため、まさか自分が H・E 染色や英語の論文を読むなんて思ってもいませんでした。研究に興味が強かったわけではなく、亡き祖父がインプラントの基礎研究を行っていたため自分も同じような研究をしてみたいという軽い気持ちで解剖学講座に入局しました。多くの皆様のお力添えのお陰で無事に博士課程を修了することができました。

解剖学講座ではかねてより筋肉、腱、骨というそれぞれの組織を 1 つの複合体として捉えることで様々な研究を行ってきました。その中で私は、高齢化に伴い問題視されているフレイルやロコモティブシンドロームなどの運動器障害について研究を行いました。入局時にやりたかったインプラントの研究とは違った内容となりましたが、分子生物学研究の専門雑誌である「**International Journal of Molecular Sciences**」に掲載することができました。どれだけ先輩の横で研究を眺めていても、いざ一人でやってみるとうまくいかず初めのうちは何度も同じ工程を繰り返しました。何がいけなかったのか研究ノートにまとめ、問題が 1 週間で解決することもあれば半年かかってやっとうまくいくこともありました。6 年生までは問題に対して選択肢から答えを選ぶことしかしてきませんでしたが、自分で考え答えを見つけていくことの大切さ、1 つの事象に対して様々な観点から確認することの大変さを、身をもって感じることができました。この 4 年間で、肉眼解剖の研究も行わせていただきました。解剖学の理解は歯科医師として必要不可欠の知識ですが、卒業後に実際の生身のご遺体を使って構造を再確認する機会はあまり多くないと思います。教科書には載っていないような舌神経の分枝や咀嚼筋の起始停止部位など普通の歯科医師では経験できないことを学ばせていただきました。また、これまで人前で話す機会はあまり多くありませんでしたが、学会発表や衛生士校での講義などを通し、人に伝えるためのスライドづくりや要点の確認など教える立場でありながら大変勉強させていただくことができました。

この度、ティーチングアシスタントやリサーチアシスタント、助教としての活動を評価していただき、大変名誉な同窓会長賞を受賞することができました。自分一人の力で成し遂げたことはほとんどなく、研究の指導をして頂きました阿部教授をはじめ多くの先輩方のお陰だと思っています。入局した当初は、基礎系講座ということもあり臨床が

おろそかになることにとっても不安を感じていましたが、この4年間で学んだ解剖学的な基礎知識と科学的なものの考え方は一生ものだと思っております。研究で培ったマインドを臨床にいても忘れることなく歯科医学のために精進してまいります。最後になりましたが、東京歯科大学にご献体を頂きました白菊会会員の皆様ならびに、ご遺族の方々、ご指導を頂きました井出理事長、一戸学長、齋藤大学院研究科長、福田学生部長をはじめとする多くの先生方、ならびに口腔科学研究センター、実験動物施設の職員の皆様に、心から感謝申し上げます。



渡辺元次大学院と井出吉信理事長

解剖学阿部伸一教授と渡辺元次大学院生



達成感と喜びを分かち合う修了者たち



達成感と喜びを分かち合う修了者たち



5年ぶりに開催された修了者による謝恩会



修了者謝恩会後の集合写真

学位論文題名 (2023 年度)

	学位記番号	氏名	学位論文題名
1	2453 号 (甲 1611 号)	渡辺 元次	Chronological Changes in the Expression and Localization of Sox9 between Achilles Tendon Injury and Functional Recovery in Mice
2	2456 号 (甲 1612 号)	久永 理央	Investigation of a transcriptional regulator-coding gene potentially involved in the virulence and amino acid metabolism of <i>Treponema denticola</i>
3	2457 号 (甲 1613 号)	千代 侑香	The translocator protein TSPO regulates T cell-mediated skin inflammatory responses
4	2458 号 (甲 1614 号)	関谷 紗世	The characteristics and origin of intramuscular tendons in the head of mice
5	2459 号 (甲 1615 号)	北村 旭	Downregulation of Sox9 expression in the Developing Temporomandibular Joint Entheses
6	2460 号 (甲 1616 号)	戒田 直紀	Ridge preservation using octacalcium phosphate collagen to induce new bone containing a vascular network of mainly Type H vessels in rats
7	2461 号 (甲 1617 号)	堀 綾夏	Effects of 3-month oral function management including dietary advice for outpatients with oral hypofunction — A quasi-randomized controlled clinical trial —
8	2462 号 (甲 1618 号)	小林 嵩史	Microbial adherence to CAD/CAM denture base resins under simulated <i>in vivo</i> conditions
9	2463 号 (甲 1619 号)	岡崎 寛弥	Aberrant LEF1 expression in cancer-associated fibroblasts promotes tumor growth and transdifferentiation toward squamous cell carcinoma in breast cancer
10	2464 号 (甲 1620 号)	品川 翔太	A new method to load epitopic peptides on different subtypes of Extracellular vesicles: Gene designing and immunological

	学位記番号	氏名	学位論文題名
			studies.
11	2465 号 (甲 1621 号)	橋本 菜央	Relationship between localization of choline transporter-like protein 1 and cell proliferation in tongue squamous cell carcinoma
12	2466 号 (甲 1622 号)	山本 吉紀	Effects of brushing and immersion in denture cleansers on the surface properties of denture base resins fabricated by digital light processing and milling
13	2467 号 (甲 1623 号)	金子 瑠実	Pregabalin acts on sodium-calcium exchanger which promotes Ca ²⁺ extrusion from Merkel cells
14	2468 号 (甲 1624 号)	岩澤 弘樹	Bone morphogenetic protein 7 promotes the differentiation of periodontal ligament fibroblasts into F-spondin-expressing cementoblast-like cells during root canal treatment; <i>in vivo</i> and <i>in vitro</i> studies
15	2469 号 (甲 1625 号)	藤川 秋	Histopathological characteristics of oral epithelial dysplasia of the tongue model in rat showing negative reaction to fluorescence visualization
16	2470 号 (甲 1626 号)	島村 唯	Accuracy and Reliability of Cephalometric Landmark Detection with Lateral Photograph Combining Coordinate Regression and Heatmap Regression for Patients with Malocclusion in Japanese
17	2471 号 (甲 1627 号)	山本 圭	Comparison of lymphocytic response to oral epithelial neoplastic lesions and infiltration of lymphocytes attacking oral epithelium
18	2472 号 (甲 1628 号)	三浦 優奈	Investigation of a DNA profiling method using only cementum more than 70 years after death
19	2473 号 (甲 1629 号)	安藤 雄太郎	The neutrophil—osteogenic cell axis promotes bone destruction in periodontitis
20	2474 号 (甲 1630 号)	岩崎 亮	Calcitonin receptor-like receptor binding neuropeptides released from trigeminal ganglion neurons establish intercellular communication with endothelial cells

	学位記番号	氏名	学位論文題名
			mediating axon reflex in dental pulp
21	2475 号 (甲 1631 号)	徳山 彰秀	Osterix Marks the Definitive Origin of Regenerative Bone-Forming Cells in the Extraction Sockets
22	2476 号 (甲 1632 号)	原 瑞紗	Morphological changes of collagen fiber bundles in periodontal ligament after orthodontic tooth movement in mice
23	2477 号 (甲 1633 号)	権 洗眞	Expression of mechanosensitive ion channels in mesencephalic trigeminal nucleus neurons innervating the periodontal ligament
24	2478 号 (甲 1634 号)	籠浦 弘城	Wear behavior of crown restoration materials and bovine tooth enamel opposed by pure titanium
25	2479 号 (甲 1635 号)	新井田 惇	Rs12411980 single nucleotide polymorphism related to <i>PRTFDC1</i> expression is significantly associated with phantom tooth pain
26	2480 号 (甲 1636 号)	井瀬 智之	Three-dimensional observation and classification of root and root canal morphology in Japanese mandibular third molars
27	2481 号 (甲 1637 号)	鈴木 玲也	Titanium nanoparticles enhance dendritic cell activity to promote T cell-mediated skin inflammatory responses
28	2482 号 (甲 1638 号)	塩谷 麻衣	Remimazolam and Epinephrine-Contained in a Local Anesthetic Solution Potentiate the Muscle Relaxant Effects of Rocuronium
29	2483 号 (甲 1639 号)	加藤 雄人	Evaluation of fabrication accuracy and mechanical properties of pre-sintered Co-Cr alloy discs for denture clasps
30	2484 号	清水 康太郎	Effects of a combination of remifentanyl and desflurane or

	学位記番号	氏名	学位論文題名
	(甲 1640 号)		sevoflurane on hemodynamic fluctuations during electrical stimulation of the mental nerve in rabbits
31	2485 号 (甲 1641 号)	青島 輝	The effect of semi-soft oral appliance therapy and transcutaneous electrical nerve stimulation for patients with sleep bruxism: a randomized controlled clinical trial
32	2486 号 (甲 1642 号)	宮崎 創太	Low-temperature atmospheric-pressure plasma application to titanium implants promotes peri-implant connective tissue attachment in diabetic model rats
33	2487 号 (甲 1643 号)	松浦 信孝	TSPO ligand inhibits RANKL-induced osteoclastogenesis in mice
34	2488 号 (甲 1644 号)	立澤 孝太郎	Computer-aided design/manufacturing and mixed reality technologies improve the accuracy of genioplasty
35	2489 号 (甲 1645 号)	岡林 宏樹	Impact of orthopedic force on the anchor screw with plasma surface treatment implanted in rat femurs on the surrounding bones
36	2490 号 (甲 1646 号)	府馬 亮介	Investigation of the evaluation by the Ultrasound elastography to the effect of training on the anterior belly of the digastric muscle
37	2491 号 (甲 1647 号)	松永 健	Factors affecting level of discomfort and difficulty in daily life in patients with iatrogenic trigeminal neuropathy
38	2492 号 (甲 1648 号)	岩崎 美友	Development of Root Caries Prevention by Nano-Hydroxyapatite Coating and Improvement of Dentin Acid Resistance



大学院学生会長の最後の挨拶

編集後記

令和5年度 大学院修了式・大学院修了を祝う会を終えて

暖かい陽の光が降り注ぎ、春の訪れを感じた令和6年3月11日に令和5年度 大学院修了式・大学院修了を祝う会が催されました。開催に際して、ご尽力していただきました方々に大変感謝しております。大学院生活における素晴らしい思い出となりました。

私たちは、新型コロナウイルス蔓延の影響を受け、緊急事態宣言下での入学となりました。通常、対面形式となっている行事は全てオンライン開催となり、御殿場でのオリエンテーションも中止を余儀なくされました。東京歯科大学への通学も夏前からとなり、研究開始も遅れてしまいました。結局、4年間を通して、私たちは一堂に会することなく大学院生活を送りましたが、1人1人が真摯に研究課題と向き合い、無事に38名が修了したことを誇りに思っております。本学で大学院生活を修了した価値に恥じぬよう、今後の歯科医師人生を邁進して参ります。最後になりますが、私たちに、ご指導、ご鞭撻してくださいました先生方、大学職員の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和5年度 大学院学生会会長 青島輝